［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	1072000381
法人名	有限会社 粕川カトレアホーム
事業所名	グループホーム粕川カトレアホーム
所在地	前橋市粕川町深津1144-2 （電 話） 027-230-6565

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年9月17日

【情報提供票より】（ 20 年 8月 20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 13年 1月 1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 8人，非常勤 1人 常勤換算8.5人

（2）建物概要

建物構造	木造造り
	1 階建ての 1 階 ～ 1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（日額）	42,000 円		その他の経費（月額）	無
敷 金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日 1,200円			

（4）利用者の概要（ 8月 20日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3	名	要介護2	2	名
要介護3	1	名	要介護4	2	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢 平均	86 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	城南病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は、自らの勤務経験から理想の運営を行うため「愛ある介護・誠実な介護」を理念に掲げ、広々とした実家の土地にホームを立ち上げている。近隣の入居者が多く、馴染みの場所への散歩、花見、地域の祭り参加など地域生活者の一員としての生活を大事にしている。職員の受持担当制、申し送りと引き継ぎの徹底と朝のショートカンファレンスの実施、日々の個別記録やカンファレンスを具体的な生活援助計画につなげる等、介護の連携とサービスの質向上に取り組んでいる。また、看護師2名を配置した日常の健康管理やかかりつけ医との医療連携、終末期の入居者の受け入れ等暖かみと信頼される介護を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回評価の主な改善課題は、管理者・職員間で検討され、運営推進会議に報告している。家族への報告は、口頭から書面での報告も追加するように指摘され、入居者の状況やホームからの連絡事項等を経過報告書として一ヶ月に1回発行し家族に渡している。栄養摂取支援は、健康維持をする上で献立表を専門的立場の人に確認してもらう必要性を指摘され、その後管理栄養士による献立表のチェックと指導を一回受けている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 自己評価は、職員の意見を聞きながら、介護支援専門員がまとめている。また、外部評価の報告を受けた段階で自己評価との比較や指摘事項を職員間で話し合い改善している。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 会議は2ヶ月毎に開催され、入居者の生活状況等ホームでの様子を説明し、質疑応答や意見交換をしている。主な討議内容は、敬老会への参加、夏場の水分補給、入居者の思いの把握、日よけ対策、外部評価の指摘事項とその後の改善等多方面に亘っている。日よけ対策としてのゴーヤの植え付け、地域の「生き生きサロン」や高齢者の健康維持イベントへの参加検討に取り組んでいる。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 玄関に意見箱を置いたり、入居者相談室を設置したりしている。また、外部の苦情処理取扱機関を運営規定で明示している。入居者家族会もあるが、休止状態にある。面会時には、家族に改善してほしいこと等を伺っている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域の納涼祭等に参加している。また、地域の方がホームにお花を届けてくださったり、散歩時にお茶をいただくことがある。近隣のお店には、職員と入居者で日用品や食材の買物に行っている管理者は、道路清掃や冠婚葬祭に参加するなど地域生活者の一員として地域と連携している。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は、「愛ある介護・誠実な介護」で理念を支える方針として、「入居者の意思の尊重、普通の生活、持てる力の発揮」を3本柱としている。	○	改正介護保険法でグループホームの役割は、地域との関係性が重要視されるようになったので、これまでの理念に地域密着型サービスとしての理念の追加を期待したい。
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやカンファレンス時に話し合い、管理者と職員は理念を共有している。家族のように接し、居心地の良い環境づくりと尊厳の保持を実践している。ホームパンフレットは大変わかりやすく作成されており、その中には地域生活者の一員として、地域の人と交流していくことが記述されている。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の納涼祭等に参加している。散歩時に地域の人にお茶をいただいたり、ホームに花を届けてくださる方もいる。自治会に加入し、隣保班から回覧板が廻ってきており、管理者は道路清掃や冠婚葬祭等に参加し地元の人々と交流することに努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で、食事の献立表について専門的立場の人に確認してもらう必要性を指摘され、管理栄養士にみて頂いている。また、家族等への報告は口頭だけでなく文書報告の必要性が提案され、職員間で討議してホームの状況や入居者の状況を記入した経過報告書を、月に一回出すように改善している。自己評価は、職員の意見を聞きながら介護支援専門員がまとめている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、入居者の様子や外部評価結果等を報告し意見をいただいている。また、自治会長より「いきいきサロン」や敬老会のお誘いを受けたり、日よけ対策であさがおやゴーヤのすだれの提案や非常時の水や非常食の備蓄等の意見が出され、取り組む等サービス向上に役立てている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員が参加しているので、その時に相談するようにしている。事業所職員が、市担当者と介護保険更新時以外では行き来する機会は少ない。	○	運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、事業所の考え方や実情を積極的に伝えていくことに期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態等の報告は、家族の面会時に口頭で報告してきたが、外部評価を活かして月に1回ホームの状況や入居者の様子を書面でも経過報告をするように改善している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時に家族に改善してほしいこと等を伺っている。家族会もあるが、活動のないまま休止状態となっている。	○	「家族会」等を活用し、家族の意見を聞けるような環境づくりをして、意見・不満・苦情を直接、間接にでも表せるような積極的な働きかけと、運営に反映できるシステムの定着化を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動等による影響を考慮し、入居者が馴染みの職員による支援を受けられるように、受持制にしたり、介護技術面の指導に力を注いでいる。新入職員は、入居者に一日も早く慣れ親しめるように、触れ合いの時間を多くとり馴染めるようにしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、職員一人が付いて仕事が出来るようになるまで指導している。外部研修には、１人が年に2回程度参加し復命書を提出したり、カンファレンスで報告し、職員間で共有している。内部研修は、看護師から折に触れて介護方法等実務的な知識や技術面の指導を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度はグループホーム相互訪問活動は実施したが、今年度は決まっていない。県地域密着型サービス連絡協議会の研修や講演会、グループホーム大会等に参加し、同業者との交流を通してサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得した上でサービスを利用できるように、本人と家族と共に来所してもらい、職員や入居者とお茶を飲んだり、言葉を交わしたりして、ホームの雰囲気に馴染めるように支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現在、入居者はすべて女性であり、長年主婦をしてきた方が多いので、料理の味付けなど教わったり、「おいしかったよ」などと入居者から励まされたりしている。夜勤の時にお茶を飲み語り合うことにより、入居者の智恵に触れたり、生活のマナーを教わることもあり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を話してもらったり、傾聴したりして、思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、表情や態度から思いや意向を把握する場合もある。また、基本情報の生活歴や介護に対する意向、趣味・特技の記載事項を参考にしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で入居者の希望を聞いたり、面会時に家族の希望を聞いたりして、入居者の担当職員が介護計画の原案を作り、カンファレンスや職員会議で意見交換をし、介護支援専門員がまとめている。介護計画の作成は4ヶ月に1回で、家族のサインをいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月に一度の定期的な見直しを行っている。見直し以前に状態の変化があった場合には、随時カンファレンスを開催したり、本人、家族、場合により医師に相談している。現状に即した新たな介護計画の見直しをし、家族のサインをもらっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制のサービスを実施している。看護師2名が、入居者の日常的な健康管理をしたり、状態悪化時には受診に同行している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が以前からのかかりつけ医を希望する場合は意向にそい、他の方はホームの嘱託医師の医療を受けられるよう支援している。定期的な外来受診は、3ヶ月に1度職員が通院支援を行っている。通院が困難な場合には、嘱託医師に往診を依頼している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針は、入居時に入居者と家族に説明している。重度化した場合には、家族と職員で嘱託医師を受診し説明をうけ、納得された場合にのみ嘱託医師の協力を得てターミナルケアを行っている。終末期は、夜勤者と看護師の2人体制で介護支援をしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人間性や誇りを傷つけないような声かけや対応をすることが徹底されている。呼称は、名字や名前を「さん」付けで呼んでいる。記録物等の個人情報は、事務室等の棚に保管し、第三者の目に触れないようにしている。また、個人情報の外部への持ち出しを禁じている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は、午前・午後の天候や一人ひとりのその日の体調を考慮する中で、入居者の希望に出来る限り添った支援をしている。食事と入浴は時間帯を設けているが、希望により別の時間を利用することも可能である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように下拵え、下膳、食後の掃除等一人ひとりの力を活かしながら、食事を楽しむ支援を行っている。職員は、朝食や敬老会・誕生会等に入居者と一緒に食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週に2回午前中に行っている。生活習慣を守り朝の一番風呂を継続する方には、希望にそうよう支援している。入浴日には温泉マークの付けた「のれん」を浴室入口に掛け、入浴を楽しむ工夫をしている。車椅子入居者は、職員2人が抱えて支援したり、季節のゆず湯、りんご湯をしたり、清拭、足浴を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や得意なものを活かして、一人ひとりが自信と誇りを持って過ごせるように支援している。調理、洗濯、清掃、草取り、水遣り、野菜の収穫の手伝い等出来る仕事を気ままに行ってもらっている。また、貼り絵でカレンダーを作成したり、短歌を短冊にして飾ったりしている。ハーモニカ、折り紙、手芸などの楽しみもあり、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日には、ホームのまわりを散歩している。外出を好む入居者は、職員と一緒に近隣のスーパーに日用品や食材の買物に行っている。平均年齢が高くなり、外食や弁当を持参しての外出は現在行っていない。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は広義の身体拘束であり、地域社会からの孤立を招くものと考え、施錠していない。出入り口は、玄関の他に2ヶ所あるが、職員が見守ることによって無断外出を防いでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に基づき、年2回の防災訓練を実施している。春季は昼間を想定し、秋季は夜間を想定して避難誘導と消火訓練をしている。避難経路、誘導方法を確認し、緊急連絡網を定めている。また、運営推進会議では有事に、特に手薄となる夜間における近隣の方の協力をお願いし協力を確認している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、よく食べていない場合には体温や血圧等が記録された温度板に記録している。水分量は1,000cc確保を目安としているが、記録はしていない。一人ひとりの状態に応じて、食事形態を変えて食事摂取しやすいように支援している。カロリー計算はしていないが、栄養バランスと塩分量に配慮しており、献立表のチェックと指導を管理栄養士から受けている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂、居間等の共有空間は広々としており、車椅子入居者も安全に移動できるように配慮されている。観葉植物、季節の花、絵画、手作りカレンダー等を飾り、季節毎に楽しめる空間となっている。また、入居者や家族の作品も飾られている。明るく清潔で開放感のある空間となっており、共用空間からは中庭がよく見えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装ダンス、エアコン、2段の細長い棚、ベットが備え付けられている。転倒の危険がある入居者はベットではなく、マットレスを使用する等支援している。仏壇やテレビ、その他生活用品を持ち込んで、入居者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		